



子どもたち 先生方の笑顔のために

共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和4年8月24日発行

第6号

長野県中信教育事務所

←過去の「共に歩まん」はこちら



シリーズ「ここが大切 授業づくり」

～生活科、総合的な学習の時間 編～

ステップ1

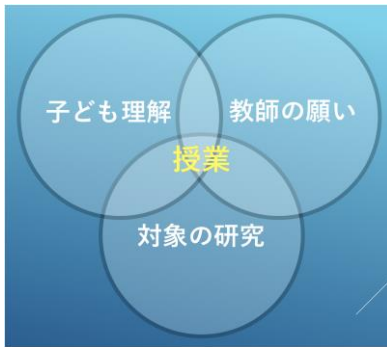
育成を目指す資質・能力を明確にしましょう

生活科は学習指導要領解説の目標と内容を、総合的な学習の時間は学習指導要領解説をもとに作成された各校の全体計画を参考にし、どんな資質・能力の育成を目指すのかを3つの柱（知識及び技能※、思考力、判断力、表現力等※、学びに向かう力人間性等）で明確にします。 ※生活科は「～の基礎」

ステップ2

資質・能力を育成するのにふさわしい活動を決めましょう

学習指導要領解説の内容（生）やふさわしい探究課題（総）を踏まえ、児童生徒の興味・関心に基づきふさわしい活動を決めます。



活動は、児童生徒の「やってみたい!」や「おや、何かおかしいぞ?」といった心の動きと共に決まるといいですね。

ただし、全てを児童生徒に任せ切りではいけません。活動の対象にどういう価値があるのか、本当に追究するだけの深みがあるのかを教師が実際に味わい十分に吟味しましょう。

教師自身がその活動に夢中になれるかどうか也很重要です。児童生徒と共に追究する者として魅力を感じられるでしょうか。

つまり、**子ども理解、教師の願い、対象の研究が一体となった教材研究**がとても重要です。



ステップ3

単元の目標と単元の評価規準を作りましょう

ステップ1で考えた育成を目指す資質・能力と、ステップ2で考えた活動を織り交ぜ、下の文型例を参考にして単元の目標を作成します。それをもとに単元の評価規準を作成します。

生活科の単元の目標の文型例

()することを通して、()を見つけたり()を作ったりし、()に気付くと共に、()することができるようにする。

総合的な学習の時間の単元の目標の文型例

()することを通して、()を理解し、()について考えると共に、()することができるようにする。

生活科の単元の評価規準は、単元の目標をもとに作成します。総合的な学習の時間の単元の評価規準は、全体計画に示された内容のまとまりの評価規準をもとに、具体的な児童生徒の姿を思い浮かべながら作成します。



ステップ4

対象との出会いを工夫しましょう

児童生徒が「やってみたい!」「おや、何かおかしいぞ?」などと心が揺り動かされるような学習対象との出会いを、教師が工夫します。

小学2年生 学校近くの森との出会いの例

- 教師 「ねえみんな、学校の近くに森があるって知ってる?そこにはね、色々なお花が咲いているらしいよ」
児童 「知ってる。ぼく、行ったことあるよ。虫もたくさんいたよ」
児童 「知ってるけど、行ったことはないなあ。面白そうだなあ」
児童 「**みんなで行ってみたいよ、先生!**」
教師 「では、みんなで行ってみることにしましょう」
児童 「やったあ!」

中学2年生 地域の抱える問題点との出会いの例

- 教師 「この数字何かわかる?『111009』」
生徒 「なんだろう?」
生徒 「もしかして、〇〇市の人口?」
教師 「その通り。実は1985年の人口だよ。では、この後最新の2018年の数を出そうと思うけど、増えているかな?減っているかな?」
生徒 「きっと減っているんじゃないかな?〇〇中の生徒の数も減ってるし。」
生徒 「でも、最近に移住に力を入れているってニュースで見たから、増えているかもしれないよ」
教師 「2018年は、『99154』人です」
生徒 「ほら、やっぱり減ってる」
生徒 「えっ、10000人以上も減ってるの!?!」
生徒 「減っているとは思っていたけど、こんなになんて。どうしてそんなに減っているのだろう?」

ステップ5

児童生徒たちの活動の中に教師も入っていきましょう

生活科、総合的な学習の時間では、教師も共同研究者の一人です。共に活動し、発見の喜びや感動を分かち合いましょう。児童生徒の気付きを授業に位置付けるチャンスです。

- 児童 「先生、豆みたいな実を見つけたよ」
教師 「本当だ、お豆みたいだね(これは、カラスノエンドウだ。食べることもできそうぞ)」
「これはなんていう名前のお豆さんかな?」
児童 「分かんない」
教師 「先生、図鑑持ってるよ。調べてみる?」
児童 「うん」
児童 「先生、これ『カラスノエンドウ』って言うんだって。あ、食べられるって書いてあるよ!」
教師 「本当?どんな味がするのかな?」
児童 「先生、食べてみようよ!」

生活科や総合的な学習の時間は、学習指導要領の目標や全体計画に照らしつつ、願いの実現に向けて子供たちと共に活動を生み出せることが魅力だね。子供たちが思わずハッと立ち止まる、そんな対象との出会いができるといいな。活動の中で子供たちはたくさんの発見をするよ。先生も一緒になって感動できる気持ちをもっていたいね。

